

高市新首相の所信表明演説

高市首相は 10 月 24 日、衆参両院の本会議で就任後初めてとなる所信表明演説を行いました。所信表明演説は、首相が自身の考え方を中心に、国政の方針を訴える演説で、首相の個性が最も表れる演説と言われています。どのようなものだったのか、今月の CBCA NEWS で確認します。

所信表明演説の概要

(はじめに)

- 強い経済を作る。世界の真ん中で咲き誇る日本外交を取り戻す。絶対にあきらめない決意をもって、国家国民のため、果敢に働く。
- 政治の安定は不可欠。そのため、日本維新の会による連立政権を樹立。

(経済財政政策の基本方針)

- 経済あつての財政の考え方を基本とし、「責任ある積極財政」の考え方で戦略的に財政出動。
- 所得を増やし、消費を改善し、事業収益が上がり、税率を上げずに税収の増加を目指す。

(物価高対策)

- 物価上昇を上回る賃上げが必要で、継続的に賃上げできる環境を整えることこそが政府の役割。
- 自民党公約の給付金は、国民の理解が得られなかったことから、実施しない。
- ガソリン税の暫定税率は今国会での廃止法案成立を期し、軽油引取税の暫定税率も早期に廃止。
- 103 万円の壁については、政党間の協議を踏まえ、今年の年末調整では 160 万円まで対応。
- 高校の無償化・給食の無償化については、制度設計の議論を進め、来年 4 月から実施。
- 税・社保負担で苦しむ中・低所得者の負担軽減のため、早期に給付付き税額控除の設計に着手。

(「危機管理投資」による力強い経済成長)

- この内閣における成長戦略の肝は、「危機管理投資」。経済安全保障、食料安全保障、エネルギー安全保障、健康医療安全保障、国土強靱化対策などに対し、官民が手を携え先手を打って行く。
- AI・半導体、造船、量子、バイオ、航空・宇宙、サイバーセキュリティ等の戦略分野に対して、多角的な観点からの総合支援策を講ずることで、官民の積極投資を引き出す。
- 5 年間の「農業構造転換集中対策期間」において別枠予算を確保、稼げる農林水産業を創出。
- 地域理解や環境配慮の下、脱炭素電源を最大限に活用しつつ、省エネや燃料転換を進める。
- 防災体制の抜本的強化を図るべく、来年度の防災庁の設立に向け、準備を加速。
- 首都機能のバックアップや分散等の観点から、首都及び副首都の責務と機能に関して検討。
- 人口減少・少子高齢化を乗り切るため、社会保障制度における給付と負担の在り方について、給付付き税額控除の制度設計を含めた税と社会保障の一体改革を議論。

(地方と暮らしを守る)

- 地方に投資を呼び込み、地域ごとに産業クラスターを戦略的に形成し「地域未来戦略」を推進。
- 5 年間の「農業構造転換集中対策期間」において別枠予算を確保、稼げる農林水産業を創出。
- 排外主義とは一線を画しつつ、一部の外国人による違法行為やルールからの逸脱に対し、政府として毅然と対応。政府の司令塔機能を強化し、土地取得等のルールの在り方についても検討。

(外交・安全保障)

- 日米関係を更なる高みに引き上げ、自由で開かれたインド太平洋を外交の柱として推進、世界の真ん中で咲き誇る日本外交を取り戻す。
- 防衛費の対 GDP 比 2%水準について、補正予算と合わせて、今年度中に前倒して措置を講ず。

(結び)

- 政治とは、独断ではなく、共に語り、共に悩み、共に決める営みです。私は、国家国民のため、各党の皆様と真摯に向き合い、未来を築いてまいります。

✚ ポイント解説

高市首相の所信表明演説は、特徴として、今後取り組む個別具体的な政策や案件を数多く列挙した内容となりました。歴代の演説原稿と比べても多岐・広範囲に渡る内容が盛り込まれている演説となっています。しかしながら、演説時間は 28 分に留まり、石破前首相の 34 分、岸田元首相の 26 分、菅元首相の 24 分と比べて特段長いわけではありません。それは演説の内容が、具体的な政策に関するものが殆どを占める一方、自己の心情や思い出、格言を用いた教訓などは必要最低限に留めた演説となっているからです。

対照的なのが石破前首相の演説でした。冒頭は政治とカネの問題に対する反省を綴り、「守る」をキーワードとして構成した内容は韻を踏んだ文学のようで、どこか饒舌な印象がありました。それに対して高市首相は、冒頭で短く決意表明した後は、直ぐに個別具体的な政策の列挙に移行しています。過去の自民党政治への反省など一切ない代わりに、実務的で未来志向な姿勢が前面に表れています。

高市演説が、個別具体的な政策や案件を数多く列挙したのは、ひとつ大きな理由があります。それは、ガソリン税の軽減税率廃止、103 万円の壁の引上げ、高校の無償化、副首都機能の検討といった、政党間協議を踏まえた案件をすべからず列挙する必要があったからです。所信表明演説に明示することで、他党との関係構築を図り、スムーズな国会運営につなげたいとの意図が見て取れます。

高市首相独自の政策としては、この内閣における成長戦略の肝と位置付けた「危機管理投資」です。特に、経済安全保障に属する AI・半導体、造船等と列挙した戦略分野に対して、今後どのような総合支援策を講じるか、高市内閣の経済政策の実行力が試されます。一方で、注目された防衛政策については、対 GDP 比 2%水準の前倒し実施には言及したものの、取り立てて大きな扱いとは感じられませんでした。憲法や対中政策など多岐に大きく影響する事項であり、やはり声高には演説しにくいのでしょう。

多くの政治課題に取り組もうとする高市首相ですが、項目が多すぎるため、うまく優先順位を付けて順調に消化できるかどうかが不安要素と言えるかもしれません。高い内閣支持率をもとに足下は周囲の協力を得やすいでしょうが、今後の進捗が注目されます。

さて、先の石破前首相の所信表明演説は 2024 年 11 月の CBCA NEWS vol.132 でお伝えしましたが、「首相が本当に守りたいのは総理の椅子なのかもしれません」と述べたところ、その通り最後は総理の椅子にしがみつこうような退陣の仕方になってしまいました。やはり、所信表明演説は首相の個性が最も表れる演説であるようです。

石破前首相の所信表明演説(2024 年 11 月)概要 (はじめに)

- ・ 失われた政治への信頼を取り戻す
- ・ 「ルールを守る」「日本を守る」「国民を守る」「地方を守る」「若者・女性の機会を守る」の五本の柱
(ルールを守る)
- ・ 国民のための政治の実現
- ・ 改正された政治資金規正法を徹底的に遵守
(日本を守る)
- ・ 日米同盟を基軸に、友好国・同志国を増やし、外交力と防衛力の両輪をバランスよく強化
- ・ 自衛官の生活・勤務環境や処遇の改善
- ・ 経済あつての財政との考え方に立った経済・財政
(国民を守る)
- ・ 最低賃金を 2020 年代に全国平均 1500 円へ
- ・ 防災庁の設置に向けた準備を進める
(地方を守る)
- ・ 地方創生の交付金を当初予算ベースで倍増へ
- ・ 新しい地方経済・生活環境創生本部の創設
(おわりに)
- ・ もう一度全ての国民の皆様笑顔を取り戻したい

一般社団法人全国経営診断士協会

〒105-0012

東京都港区芝大門 1-1-32

御成門エクセレントビル 8 階

TEL : 03-6459-0161 FAX : 03-6435-7717

mail:jimukyoku@cbca.jp <http://www.cbca.jp>

お問い合わせ先